

人にやさしく接する勇気を！

校長 松本 雅史

2学期が始まり、9月も半ばに入りました。

一昨日の土曜日は、中秋の名月といって今年は満月でした。雲一つないとても美しい月に思わず見とれてしまいました。中秋の名月の時は、お月見といって、お団子やススキをお供えするならわしがありますが、皆さんの家ではどうでしたか。

さて、その土曜日に、人権の作文発表会があり、小平市の代表として4年の児童が発表をしました。とても堂々として立派に発表をすることができました。

作文の題名は「視覚障がい者への気持ち」です。視覚障碍者とは、目の不自由な人のことです。この児童は、目が不自由な人と接したときに、目の不自由な人が階段で落ちそうになっているのを見かけてはっとしました。でもどうしたらよいか分からず、自分から声をかけることができませんでした。その時、別の人から声をかけて事なきを得たという経験をしました。そして、「声をかけた人が、すごくかっこよく見えた」と話しています。この児童は、その後目が不自由な人に対してどんなサポートをしたらよいのか考えます。そして、勇気を出して「お手伝いしましょうか」と声をかけることだと考えます。

皆さんは、困っている人を見かけたときに、「大丈夫ですか」「お手伝いしましょうか」と声をかけることができますか。先日、廊下で低学年の子が筆箱を落として中の鉛筆などが床に散らばってしまっているのを高学年の子が一緒に拾ってあげているのを見ました。廊下に落ちているごみを拾って、ごみ箱に捨ててくれた子を見ました。さりげないやさしさが、あたたかい学校をつくっていきます。学校には、けがや病気のために、気を付けて学校生活を送らなくてはいけない友達も多くいます。そうした友達へのやさしい配慮をこれからもよろしくお願いします。

話の角度は変わりますが、あたたかい雰囲気を作っていく上で、「人が嫌がることはしない」ということも大切です。思うようにいかないことがあって気持ちがもやもやしたり、人の視線が気になって怒りっぽくなってしまったりということはありませんか。しかし、その気持ちに負けて人に迷惑をかけるようではいけません。特に暴力や暴言は絶対にいけません。ストレスを上手に解消する知恵と、我慢する力をつけていってほしいと思います。つらいときは、いつでも校長室にきてください。一緒に考えましょう。

今回の発表を聴いて、人と人がお互いを認め合い、いたわり合うやさしさの大切さをあらためて思いました。素晴らしい発表をありがとうございました。

これで今朝のお話を終わります。